

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300893		
法人名	社会福祉法人 総社保育園		
事業所名	グループホーム総社		
所在地	岡山県津山市総社309		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detai_022_kanietrue3Ji_gyosyo0d=3370300893-003Service0d=3205Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気一人でひとりが安心して過ごせる居心地の良いホームを提供し、残存機能を活かし、生き生きと生活できるよう支援しています。高台にあり、明るく、木造建築で室内は温かみのある木目調で、ホームの窓からは、四季の移り変わりが感じられます。季節を感じられるよう外のベンチに座りお茶を飲んだり、食事をしたり、外出の機会をもっています。できる方には、家事(調理、掃除、洗濯干し、洗濯たたみ等)を積極的に手伝っていただけるように支援しています。また、散歩や体操、歌等を取り入れたレクリエーションを行っています。季節の食材を取り入れた食事は一汁三菜の提供を心がけ、ゆったりとした雰囲気の中での食事をしています。また、毎日の入浴は皆様に喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が安心して暮らせる事を大切に考えている。例えば、共有スペースで友人(他の利用者)と過ごすのが好きな利用者は、友人が居室に帰ってしまうと寂しさから不安になる。職員はその利用者が独りにならない様に隣に座って一緒に過ごしている。また、入浴後に用意した衣類が、それまで着ていた物と違うと「盗られたのでは」と不安がる利用者が居る。「盗られていない」と説明するのではなく、同じ衣類を2組用意する事で、不安にさせない工夫をしている。楽しみである食事にも力を入れている。1日千円と低料金ながら、品数は多く見た目にもこだわり勿論美味しい。まるで家族のように「晩ごはん何にしようか」と利用者と一緒に相談しながら献立を決める。先日は、手巻き寿司のリクエストに応え大変好評だった。地元の保育園に卒園記念の贈り物を手紙を添えて毎年届けている。園児からは、お礼の訪問とともに歌のプレゼントがあり、利用者は大変喜んだ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える場所に貼り、ミーティング開始時に声に出して読み、職員全員で共有し、実践に努めている。日々の暮らしの中でその人らしい生活ができるよう話し合い、ケアに対する考えを確認し合っている。	理念に「利用者の側にいます」と掲げ、寄り添う支援に努めている。職員が申し送りや掃除の時など寂しくならないよう、一緒に行動を共にしている。訪問当日も、優しく背中をさすったり、手を握ったりするなど、寄り添った対応をしていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とはコロナウイルス感染症対策にて、避難訓練や運営推進会議に参加して頂くことができなかったが、日頃の挨拶を大切にしており、お花や野菜を持ってきて下さったり、周辺の草刈りをして下さる。町内清掃に参加している。	散歩する人と挨拶を交わしている。以前は職員が事業所周辺の草刈りをしてきたが、「大変だろう」と今は近所の方が定期的に草刈りしてくれる。近くにある畑で、野菜や花を育てている人は、帰路時に収穫した野菜などを持って来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等が開催できず、地域の方に来所して頂く機会がなかったが、機会があれば認知症に対する理解を広めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症対策にて会議が開催できなかったが、行事や状況報告をまとめており、いつでも閲覧して頂けるようにしている。また、ご家族へも配布している。	町内会に加入し、毎月広報誌が届く。そこに行事中止の案内があれば、運営推進会議の開催も控えている。開催時は、地域住民が参加してくれるので、「散歩途中、利用するトイレがきれいになった」等の情報を教えてもらっていた。	市の担当者にも議事録を郵送し、事業所の取り組みを伝える機会を設けて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から分からないことは市に相談し、市からも連絡して貰っている。	運営推進会議を開催していた頃は、事業所の実状やケアサービスの取り組みを伝えられる機会があったが、現在はなかなか機会が無い。市の担当者から、メールで情報を送ってもらえるので、参考にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所以来、「身体拘束をしない」、「玄関の鍵をかけない」とし、職員全体が「拘束しない」ケアに取り組んでいる。定期的に職員身体拘束等の適正化のための対策を検討したり、介護の仕方を見つめ直している。	閉じ込められたとの思いをさたくないの、夜間帯以外は鍵を掛けない。帰宅願望の人が数名居る。外に出て気分転換を図るが、何度も出て行こうとするので、危なくないよう一緒に付いていく。「今日は泊まるよう家族から頼まれています」等、声掛けをして落ち着いてもらうこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて勉強会を行い、虐待をしていないかの自己チェックを行ったり、虐待(暴力だけでなく態度や言葉においても)の防止、利用者の尊厳を守るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加し、理解を深めるようにしている。今のところ必要とする対象者はおられないが、必要があれば支援に結びつけていくようにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項の内容を説明し、理解や了解の上、同意を得ている。質問や疑問があればそれに応じて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、ご利用者やご家族との会話の中で意見や要望を聞き、職員間で申し送り、反映するように努めている。	家族には手紙や電話で、常に問いかけ、何でも言ってもらえる関係づくりに努めている。運営推進会議には利用者も参加し、意見等を述べる機会となっていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定期的にミーティングを開き、意見を出しあったり検討したり、毎日の申し送りや、それ以外でも話し合い、管理者と法人本部との管理者会議もおこなっている。	職員からの提案は、職員全員で相談しながら反映させている。理事長と会う機会が多く、「建物北の土地を避難場所にしたい」と言えば、そこ迄の通り道を作ってくれた。また、避難時に妨害となる樹も切ってくれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望を出来るだけ取り入れた勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいにつながるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や、ケアマネ等の資格取得を勧め、また、外部の研修があれば、できるだけ参加するようにし、ホーム内勉強会を毎月行い、必要な知識を得るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所やグループホーム協会主催の研修会があれば、参加、交流や質の向上に努めている。職員の相互訪問をしたり、他グループホーム管理者と密に交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時など、ご本人の生活スタイルを把握し、要望や不安などに耳を傾けている。早期に信頼関係を築くことができるように配慮し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のプライバシーに配慮しながら家族の抱えている問題、困っていることに耳を傾け、関わりを持ちながら、サービス提供出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接において本人や家族の意向を情報収集し、「今何が必要でご本人にとってどのように支援したらよいか」を考えてサービス提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の出来る事をして頂き、生活に「張りややりがい」がもてるように配慮している（掃除やシーツ替え、洗濯たたみ、台拭きなど、主婦としての働きを学び、かなり職員が助けて貰っている）。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの利用者の様子や行事等を手紙でお知らせし、ご家族との絆を大切にしている。面会が可能な時は感染防止対策に配慮している。面会制限時は日頃の様子を写真で伝えたり、電話で話をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの方が気軽に面会に来ていただけるよう支援している。	コロナが蔓延している時は、玄関の扉越しで面会をしていた。声が聞き取りにくい場合は、子機を活用しながら会話をしてもらった。現在は、予約制で面会を再開している。予約制ではあるが、近くまで来たと連絡があれば、利用者の体調に問題が無い場合は面会してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、皆様が出来ることを選んで、それぞれ笑顔が出るよう配慮している。その中でごく自然に利用者同士が、支え合い関わり合うようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係施設に移られた方は、近況を尋ねている。 退居されたご家族がお野菜を作り、持ってきて下さったり、備品を寄贈して下さっている。また、連絡をくださる方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生活を大切にして、本人の気持ちや思いを聞き、添えるように心がけている。また、出来るだけ自己決定できるように声掛けなど配慮している。	日々の関わりの中で声を掛け、利用者の思いを汲み取るように努めている。遠慮がちな利用者には、職員が積極的に声を掛ける。絵手紙に興味を示した利用者の為に、管理者が道具の手配をした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時生活歴や、馴染みの暮らし方等を尋ね、把握するよう努めている。ご家族の面会時に聞いたこと、ご本人との会話で知りうることなど職員全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の日々の行動や状況を記録し、日々共に生活する中で、気づきや、出来ること、出来ないこと、好み等を見極め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どんなことを支援をすれば、ご本人がよりよく生活できるか? 職員で話し合い、介護計画を作成している。また、面会時や電話・手紙等で、ご家族の希望を聞き、生かしている。	介護計画に基づく支援内容を個人ファイルに綴じ、実施できたかどうかの確認を毎日している。介護計画更新時には、職員にサービス内容を確認してもらい、必要な支援を書き加えてもらっている。家族にも介護計画書と同意書を送り、意見を記入してもらう欄も設け、要望を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、一人ひとりの様子などを記録し、必要があれば話し合いをして対処している。申し送りノートを作成し、職員で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況の変化があれば、その都度ご家族の希望や要望に応じて対応するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策のため、受け入れが出来ていないが、園児交流として、園児が卒園前に訪問し、感染症対策にて玄関前で歌を披露し、寄せ書きを持参して下さったので、利用者も卒園児に向けてメッセージを書き、お祝いをされた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は基本にご家族が対応しているが、コロナウイルス感染症の発生状況に応じてホーム対応も行っている。必要に応じて歯科医の往診がある。また主治医の往診が月2回あり、急な時は夜間や日・祝日でも適切な指示をもらっている。	協力医療機関は、24時間365日対応してくれるので、全ての利用者に変更をしている。定期受診は家族にお願いしているが、不可能な時や様子を直接伝えたい時には職員が代行をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本部雇用の看護師が週1回訪問し個々の精神面や体調面についての報告を行い対応について相談し、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、ホームでの様子を介護添書で、退院時は病院から看護添書により、相互に連絡を取っている。また入院中は電話連絡で様子をお聞きし、退院時には状況把握が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援は、今の体制では難しく、看取りは考えていない(関連母体の特養等の連携があるため、入居時家族の希望を聞き、出来ること、出来ないこと等話している)。	医師から「グループホームでの生活は難しい」と言われれば、家族に相談し別の施設を探してもらっている。直ぐに施設へ転居できないことが多いのと、家族も出来る限り住み慣れた事業所で暮らして欲しいとの要望から、可能な限り支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員がすぐ目を通せるようにしている。また、ホーム内勉強会で緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルス感染防止対策で外部の参加は中止しているが、昼夜を想定し、避難訓練を実施している。近隣施設(椿寿荘、保育園、国府の里等)とは、協力関係が出来ている。	消防団と交流があるので、協力体制が整っている。訓練の際、火災発生の際の誤情報が火災メールの登録者に届いた事があり、直ぐに警察と消防署が駆けつけてくれた。訓練だと説明したが、警察はそのまま訓練に参加してくれ、利用者は警察の人達と交流ができた事を大変喜んだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、私たちの先輩であり、利用者の生きて来られた人生を尊重し、日常生活の中で誇りやプライバシー損ねない言葉かけや対応に努めている。	落ち着かない様子の利用者には、「トイレですか」とは聞かず、「どうされましたか」と尋ねるようにしている。面会の際、職員が近くに居ると話しくいかかもしれないので、少し離れた場所で見守っている。受診時には、本人の目の前で不穏時の様子を先生には言わず、紙に書いて伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が希望を表したり、自己決定が出来るよう選択できる声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、それぞれが自分のペースを保ちながら生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れた基礎化粧品を使用されている方もおられ、身支度を一人で出来ない方は手助けしている。また感染防止対策に努め、訪問理容を利用し、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にとって、食事はとても楽しみで、毎回「うわー！ご馳走！」「おいしかった！」と言う声に励まされ、美味しい食事を作るよう心がけている。コロナウイルス感染症対策で職員は共に食事はできないが、配慮しながら、楽しく食事が出来るよう支援している。	朝食と夕食の時間をたっぷり取り、自分のペースで食べてもらっている。季節の食材を使用した料理を提供している。訪問当日もきのこづくしの料理だった。広告を見ながら利用者には何が食べたいかを尋ねている。先日も北海道物産店があり、皆が三方六のバウムクーヘンが食べたいとの希望があり購入した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握し、食事量、水分量等を記録し、健康管理に役立てている。調理もその人にあった方法で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕声掛けし個々の力や必要に応じて介助を行い、歯磨きを習慣にしている。夜は毎日うがい液でうがいをし、義歯をポリデントで殺菌消毒して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにより、声掛け、誘導など介助し、後始末など出来ないところを介助している(排泄記録を付けることにより、一人ひとりの状態を把握している)。	日中はできるだけおむつは使用せず、歩行訓練も兼ねてトイレへ誘導をしている。あまりにもトイレ誘導を嫌がる利用者は、失禁している可能性がある為、二人で介助し本人に気づかれない様パット交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘によって問題行動を引き起こすことも考えられるので、水分補給に配慮している。また、野菜など、繊維質の多い物や乳製品の摂取も心がけている。また必要に応じてオリゴ糖を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴をとっても楽しみにされている方もありバイタルチェックにより、可能な限り毎日入浴して頂いている(時に入浴を拒否される方も居られるが、無理強いせず、気持ちを大切にしている)。	利用者と職員とで「いい湯だな」と歌いながら、楽しみの一つとして入浴している。入浴支援は毎日で、真夏の暑い日でも職員は、完全防備で感染対策を徹底している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は今までの習慣から寝る時間がだいたい決まっており、希望により安眠灯等で明かり調節したり、季節に応じた室温を心がけている。昼間も自由に休息しておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは、医療対応業務記録簿に記入して共有を図り、誤薬の無いようにしている。また、服薬ファイルを綴じており、職員全体が内容を把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、ご家族の話などからできる事、本人が楽しみにしていること好きなことをして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、外部のイベントに参加できない分、ホームで出来ることを色々計画し、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場へのドライブや、ホーム周辺の散歩に出掛けている。なかなか外出できない方には、玄関先で日光浴をしたり、ホーム周辺を車椅子で散歩したり、歌を歌ったりして戸外の空気に触れるようにしている。感染予防のため、家族や地域の人々からの協力は控えていただいている。	季節の行事で出かけた際の写真を廊下に飾っている。その写真を見て、「紅葉を見に行きたい」と言われドライブに出かけた。今回は少人数の仲良し同士で出かけたので、本音が聞けた。防災ラジオや市のタイムラインから、ツツジが満開との情報を得てドライブに出かけた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、かえって混乱を招く方もおられたり、ほとんどの方がお金の管理が困難なためご家族に書面にて了解を得て、ホームで管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの電話は希望がなくても、こちらから声掛けし、ご本人に取り次いでいる。年賀状や、はがきの返事を書いて送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、写真を飾ったり、ご利用者の作った物を飾り、会話を引き出し、居心地良く過ごせるように配慮している。	砂利で歩きにくかった場所を舗装した。そこでピクニックを楽しんだり、洗濯を干したりしている。またスロープも設置し、車椅子の利用者もスムーズに移動ができるようになった。食事中は、音楽を流し、食後は色々なDVDを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は狭いが、ソファで気のあった方とTVや会話などをして自由にすごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人によっては使用していた馴染みの物を持ち込み自分の居場所となっている。また写真を飾ったり自分の製作物を飾っている方もおられる。	居室の窓からは四季折々の風景が目に入る。ふとん、枕、シーツ等使い慣れた物を持ち込んでもらっている。各居室に洗面所が設置されているので、化粧水とブラシを持ち込んでもらい、毎日身だしなみを整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置により、安全に歩行できるように配慮している。また、トイレなど、昼夜小さな明かりをつけたり、大きく表示し場所が判るようにして見守りをしている。		